

平成25年(2013年)2月19日(火曜日)

森理世さん考案「覚えやすく」



「富士山だ」の振り付けを練習する森理世さんのダンススタジオの生徒—静岡市葵区

「富士山だ」に軽快な踊り

故阿久悠さんが作詞し、歌手の加藤登紀子さんが作曲した富士山世界文化遺産登録の応援歌「富士山だ」にこのほど、ダンサーで振り付け師の森理世さん(静岡市葵区)がオリジナルの振り付けを行った。覚えやすく軽快な踊りは、2月23日に同市駿河区のグランシップで行われる「ふじのくに芸術祭」のオープニングイベントでお披露目される。

23日、芸術祭でお披露目



森理世さん

「朝に見ても富士は富士」「涙で見ても富士は富士」など、歌詞に登場する情景をシェスチャーで表現する。肩を上げて両腕を左右に広げたり、指で「2



富士山を世界遺産に

・2・3(ふじさん)」を表したりするポーズが特徴。「富士山と分かるような、おしゅれで格好いい動き」(森さん)に苦心したという。NPO法人グラウンドワーク三島が昨年2月23日、ジャズ歌手とキーボード奏者のユニット「ムーン・リバー・ウォーカーズ」によるCDを発売。「曲を聞いた子どもが踊り出した」との声が寄せられたことから、自身のダンススタジオで子どもたちにダンスを教える森さんに振り付けを依頼した。今後は踊りを収録したDVDの提供や小中学校への指導のほか、ダンスコンクールのほか、ダンスコンクールなどにも視野に入られ、富士山にちなんだスタンダード曲を目指す考えだ。

森さんは、幼稚園児からお年寄りまで、ダ

ンス経験のない人でも踊れるように意識したといい、「元気に体を使って表現したいという心をくすべる事ができるのでは」と語る。23日にはスタジオの教え子たちが振り付けを披露する。「言葉や文化の壁を乗り越えて、全世界の人たちが踊ってくれるようになれば」と期待を寄せる。